

19 William Cullen にみる Delirium の記載

ウィリアム

小曾戸 明子

近年、国際疾病分類の展開には、めざましいものがあるが、その一方で精神医学領域では現象が複雑で重層化し、病像理解に苦慮することも多い。この領域で、*neuroses* という語をはじめ用いたとされる、William Cullen (1710—1790) による疾病分類並びに *Delirium* の記載についてみてみたい。

今回材料として用いた書物は、カレンの名著とされる

『FIRST LINES OF THE PRACTICE OF PHYSIC』

(四分冊)で、一冊はたて21cmよこ13cm厚さ約300頁(約四五〇頁)である。英語で記されている。カレンの死の翌年にあたる一七九一年発行のもので、著者の序文は一七八三年のものである。目次のなりたちは、Part, Book さらに Chapter, Section という下位の分類が立てられている。

全体は三つに分けられている。

Part 1 Of Pyrexia, or Febrile diseases

Part 2 Of Neuroses, or Nervous diseases

Part 3 Of Chachexias

分量を頁数から比較してみると、Pyrexia が全体の半分以上、約千頁、二冊分を越え、Neuroses が約五百頁、残りの Chachexias は二五〇頁で、これを三つのパートは、1:1/2:1/4 の割合となっている。

Delirium の記載があるのは、Part 1 の中の Book 1 Of Fevers、Part 2 Book 4 Of Vesania or Of the Disorders of the Intellectual Function 中の Chapter 1 Of Vesania in general の中で、特に後者に頻出する用語である。

Hallucinationes という用語もみられるが、それらは Morbi Locales に任される (referred) としている。しかしこの書の中では、Morbi Locales に目次は特別に立てられていない。したがって、Hallucinationes は、感覚における単一の対象、特別な器官にかかわる判断の誤りをもたらすとされ、判断の全般にかかわる Vesania からは

除外されている。のみならずこの書の全体からも排除されているようだ。

Delirium については覚醒している人の 'false perception, unusual association of ideas, perceptions of imagination, false recollection, disproportionate emotions などから' false judgement が生じると定義されている。又覚醒と睡眠の間の 'state of inequality in the excitement of the brain により生じる' と言われる 'dreaming を imperfect sleep に言及される。

Neuroses の分類の中で、カレンは三つの機能を想定し (animal function, vital or natural function, intellectual function) '炎症性疾患では 'vital function が増し、mania では animal function が増すと記され、脳の状態の種々の an inequality が intellectual function に及びます。

又 Delirium は pyrexia (熱病) の有無により二種類を区別し、熱を伴わない vesania に属するものを Insanity と呼んでいる。

Insanity の死後の解剖にもよれし、Morgagni の言

及もみられるが、脳の organic lesions を想定することには冷やかである。organic affections は、その affected parts も free な部分も種々な程度の excitement をもたらすと記され、複合病態への言及がくり返しみられる。

(海上寮療養所)